

伏鹿手水所（ふせしかのてみずしょ）

春日大社の神々に参拝する前に、この手水所の水を使って、宗教的儀式に則った浄めを行います。この手水所には、神聖な御蓋山から流れ出る水谷川（みずやがわ）からの水を引いています。

どこの神社の入口にも、同じような手水所があり、神道の参拝の重要な部分です。参拝する準備として、また、神社の祭神を敬う気持ちを示すため、この手水所で手と口を洗い、身を清めます。神道の礼拝では、特に、清浄、清潔、再生を重視します。

手水所では流水を使っています。それは、流れない水より清浄であると信じられているからです。水をすくうにはひしゃくを使います。人の手を手水所の中に入れていないようにしているのです。多くの神道の手水所には竜の像が置かれています。日本では竜は水と関係しているからです。しかし、春日大社の手水所では、鹿にまつわる伝説があるため、水は鹿が口にくわえた巻物から流れ出ています。